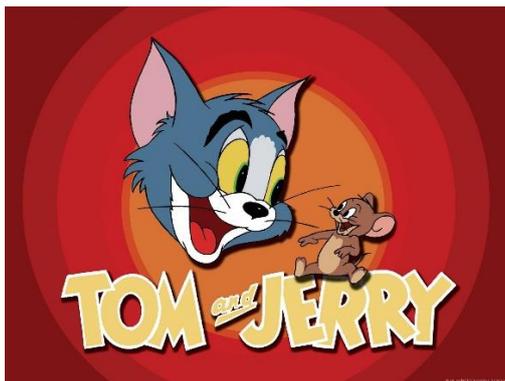


『Mind Charging』

第 232 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 3 月 10 日

トムとジェリー『最終回』の都市伝説



今回は名言ではなく都市伝説的なエピソードとして『トムとジェリーの最終回』を紹介します。ネコのトムとネズミのジェリーが仲良しでありながらもコミカルに描かれるケンカのシーンが人気のアニメであり、一話完結でかなり多数のエピソードがあります。作品が古いと感じますが、実は今でも新作が作られているらしいのです。しかし、タイトルにしたように『最終回』も存在するそうです。最終回ではそんなドタバタ劇はおろか、トムの登場さえないというのです。『トムとジェリー』というタイトルなのに最終回にジェリーしかいないなんて…。それでは都市伝説とされている最終回のエピソードを紹介します。

自分の最期が迫っていると感じたネコのトムはネズミのジェリーの前から姿をくらまします。ジェリーはトムが身を潜めたことを感じ取り、それを悟りましたが意外に寂しさなどは感じませんでした。そこへ「やあやあ」と、見知らぬネコが現れます。その見たことのないネコは、トムより小さく、動きも鈍いのです。トムに毎回やっていたようにこのネコもからかってやろうと、ジェリーは罠を仕掛けます。しかし、鈍くさそうに見えたネコは、罠を簡単に回避した上でジェリーを襲撃したのです。ネコから襲撃されたジェリーは大ダメージを受けてしまいます。この時、ジェリーはトムが鈍くさいネコなのではなく、わざと負けたように手加減してくれていたことを悟りました。そして、ついにジェリーもトムのいるあの世へ旅立つのでした…。

実はこのエピソードは公式ではなく、ファンの作ったものだそうですが、非常によくできていますよね。しかもこのエピソードの作者は日本人とも噂されています。国境を越えて愛される素晴らしい作品だということがよくわかります。

この短いエピソードには思いやりの心の大切さや、時には自身を振り返って周りに感謝することなどに対するメッセージを感じます。そして、ジェリーを置いて先に旅立ってしまったトムに親の存在を重ねつつ、『いつまでも親が自分を見守ってくれるわけではない』と改めて思いました。先生や先輩、仲間たちも、私たちに様々な形の愛情を注いでくれています。その中の一つが“親心”だと思います。自分で“当たり前”だと思っていたことが、誰かの親心によって“当たり前にしてもらっている”ということもあるのかもしれませんが。そうでなくても、そう思って行動することによって思いやりの心は繋がっていくのではないのでしょうか。信じるか信じないかは、あなた次第です！（編集委員：入試広報室 鈴木）

トムとジェリー(英語: Tom and Jerry)は、アメリカ合衆国の映画会社メロ・ゴールドウィン・メイヤー(MGM)に所属していたウィリアム・ハンナとジョセフ・バーベラが創作した 1940 年から続く短編アニメーション映画シリーズおよびテレビアニメ、カートゥーン、ギャグアニメである。略称は「トムジェリ」(ワーナー・ブラザーズウェブサイトより)、「TJ」など。(Wikipedia 参照)